

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673500098
法人名	医療法人 小山クリニック
事業所名	グループホーム れんげそう 1ユニット
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地 (電話) 0993-77-2646
自己評価作成日	平成24年 12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金峰山のふもとに広がる田園地帯に位置し、近くにある小学校からは毎日子供たちの元気な声が聞こえ、登下校の子供たちとあいさつをかけ合って、自然な形で交流が続いています。スタッフは「ありがとうが飛び交うれんげそう、ダメを言わないサービス」を接遇スローガンに掲げて、利用者様が自分らしさや誇りを持てる暮らしが出来るよう努力しています。年々重度化がすすんでいます、本人、ご家族の思いを最優先に考え、希望されれば最後までなじみの方々との暮らしが途切れないよう、出来るだけ入院せずに見取りまで出来るよう、協力医療機関のスタッフと共に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○田園地帯の一角に位置し、近隣に小学校があり、日頃から世代間交流が行われている。大きな窓や天窓からの自然光が豊かで、明るくゆったりとした造りとなっており、ハード面、ソフト面において全体的に明るい雰囲気であり、利用者の心身の安定に良い環境であると思われる。

○医療施設を関連機関に持ち、認知症に理解がある医師の協力が得られ、迅速で適切な指示や助言が得られるため利用者や家族にとって大きな安心感がある。重度化が進んでいるが、その人らしい生活を求め、可能ならばターミナルケアを視野にいれた取り組みが行われている。

○職員間は先輩後輩の関係がよくできており、経験の浅い職員は経験者から助言をもらい介護に活かすなどサービスの向上に活かされている。

○食事が楽しみに繋がるように食材は新鮮で良質なものを使用している。

○施設外研修については職員に紹介し、受講費用の負担を事業所が行うなど、事業所としての配慮を行っている。

○昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合い、目標計画もたてられていた。評価結果は誰もが閲覧できるようにリビングに設置されている。管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に毎日唱和し、仕事として気持ちの切り替えを行い日々初心に帰り、介護に努めている。	開設時に掲げた理念を2年前に見直し、変更した新しい理念を掲示して、毎朝朝礼で唱和している。運営方針には「なじみの方々と一緒に」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新規ご利用者様が増え、日常の生活活動も活発化が図れる状態にあり、お隣の小学校との交流も活発化が望まれるようになった。	地域の催事に積極的に参加しており、近隣の小中学校、学童保育、障がい児デイサービス等との交流を図っている。地域の方が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。介護相談や体験学習の受け入れを行っており、今後は地域での認知症の勉強会や相談会も計画している。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護実習生の受け入れ、小学校・保育園・幼稚園生との交流は定期的に行なっているが、認知症についての理解を外部に向け発信しているとは言えず、今後の課題でもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、参加するスタッフの人数も増やし、サービスに生かしていく努力を行なっている。会議の内容についても一度検討する必要性もあるように思われる。	家族代表・民生委員、同法人のクリニック関係者、市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。目標改善計画を作成し、改善計画シートも活用し改善に向けて話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村に出向き相談を行い、連携を取りケアサービスの向上に繋げ、協力体制を築いている。	介護度の重度の方への対応や施設設備などについて、日頃より相談しながら施設運営を行っている。メールを活用しお互いに情報を共有し、市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全委員会・研修委員会・広報委員会立上げ時より、各々の担当者会議・ケース検討会を行い、常にスタッフの意識を高める努力を行なっている。	接遇スローガンを掲げ常に接遇に対して意識し、毎年マニュアルの見直しを行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけた自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、利用者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩に行くなどの支援をしている。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の勉強会を通しスタッフ間で話し合いを行い、スタッフの注意・喚起を促している。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度等勉強会を開催している。また実際に司法書士さんが関わる事例もあり、より深く知りえることが出来た。しかし全スタッフに理解を求めるまでには至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には読みあわせを確りを行い、分かりやすい説明を心がけご家族の不安・疑問点などに対応しご理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中で意見を聞く機会を持ち、運営に生かしていく努力をしている。 ご家族のご希望などアンケート形式をとる機会も設けているが、真意のほどは伺えなていない状況である。	第三者委員を設置し、重要事項説明書に相談窓口を記載したり、毎年家族アンケートを行うなど、家族が意見や要望を表しやすいように配慮している。職員が苦情・相談などを把握した時には申し送りノートなどで他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会等で聞く機会を設けているが、十分とは言えず、今後の管理者の課題である。	朝礼、研修会、会議時に勤務体制などについて職員間で話し合ったり、管理者は普段より気軽に声をかけやすい雰囲気づくりを心がけている。また悩みがありそうな職員には、個別面談を行い問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が定例会に参加される事は無いが、管理者を通じて現状報告がされ、各自のモチベーションアップに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外での研修参加の機会があれば、進んで参加をし、一人でも多くの人材に均等に自己研鑽出来得る研修も組み立てて行きたい。</p>		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区の協議会に参加し、ネットワークづくりに取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始以前より情報の聞き取り・ご本人・ご家族との面談等行い、信頼関係を構築する努力をたゆまず行っている。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、お困り事をお聞きし、入居以前にもう一度現状の確認、ご家族のお気持ちの確認を行い信頼関係の構築に努めている		
17	0	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の出来る事・したい事に目を向け、したい事が出来る為には、またできることが継続し出来る為にはという視点で、十分な見極めをスタッフの目を通し話し合って対応している。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の望む生活とは？と常に念頭に置き一緒に生活をするという気持ちで関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間も特に制限も無く、面会時などにご家族とスタッフで話をしながら、一緒にご本人を支えて生活をする関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自宅周辺にドライブに行ったり、お盆・正月など一時帰宅もご家族の協力を頂ながら行いご本人の大切な思い出、事柄が記憶の中に残っていただけるように支援している。	家族や本人とのふれあいや会話の中から利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう面会、電話の支援や、自宅までの散歩や墓参り、馴染みの美容室利用などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴や認知面での重度化で、他の方との関係性を保つ事が難しい方も居られますが、スタッフの仲立ちで共に支えあう関係性の構築に努力している。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	健康面でやむなく退去された方も、入院中の病院に出向き現状を把握し今後協力出来得るサービス等の検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	パーソンセンタードケアを実践するに当たり気持ちシートを活用しスタッフ全員に周知徹底し本人の気持ちに寄り添う介護のあり方等検討している。	利用開始前に自宅で本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、私の気持ちシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々の関わりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特にサービス利用開始時に、今までの生活状況や仕事暦などご家族・ご本人に詳しくお聞きしたり、利用サービス機関からの情報提供頂くなどし、把握に努めている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録のあり方等検討を繰り返し、自立支援の上でのご本人の現状を把握する努力をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々日常生活での気づきを申し送りノートに記入し、ご家族の面会時などをご利用しご意見を伺ったり、ご本人に直接お聞きしたりしながら、介護計画を作成している。	利用者ごとに担当制を設け、担当者が「私の気持ちシート」に本人の言葉を拾って記入し、全体カンファレンスで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成している。また、カードックスを活用し、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。利用者や家族の意見を取り入れながら計画を作成している。しかし、外部関係者に担当者会議へ参加の働きかけを行っておらず、外部関係者の意見は書面の提出のみに留まっている。	担当者会議に外部関係者の不参加が日常化していることが避けられるよう、外部関係者への働きかけを行うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物を通し、気付きを深めスタッフ間でいつでも検討できる体制をとり、見直しに活かしている、		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時の懇談を通し、ご家族の複雑な思いに接し、ご家族とご本人の関係修復などを念頭に、改めて認知症についての勉強を深めて、ご家族と共に支える支援を心がけている。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	我がれんげそうには近隣に小学校があり、小学生との交流会も行っている。また実習生を受け入れその学校のみかん狩等にもお連れしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご説明し納得いただいた上、掛かりつけ医の受診を定期的に受けられるように支援している。	本人や家族の意向を大切にして、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。治療受診時も適切な治療がうけられるように、生活記録表や連絡ノートを利用して情報提供に努め、良い関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週3回訪問、緊急時にはいつでも看護師が対応できる体制があり、すぐに適切な治療が受けられている。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供をし、入院中の面会も頻会に行い、利用者家族の不安解消を図っている。またその後の対応など誠意を持って対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当園の方針などを説明し、今後の方向性についてモニタリングし、段階を経て同意書を作成しケアプランの見直しも行き、常に生き方をどうされるかをご家族と友に考え、進めていっている。	看取りの実績もあり、本人の状況に合わせ段階的に話し合いが行われている。重度化や看取りに対するアンケートを家族に行い、意見を集約している。方針について家族、職員の共有も図られ、どうすれば看取りができるか綿密に話し合いながら取り組んでいる。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成。また実際に今期は急変される入居者が居られ、看取る機会があり、とても勉強になった。今後には生かす為にも職員皆で討議を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自然災害の多い中、職員間で話し合い、水害を想定しての避難訓練・火災の初期消火訓練をスタッフのみならずご利用者にもして頂きもしもの場合に備える訓練を行っている。</p>	<p>避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。消防団と話し合いながら災害対策を行う体制を整えている。地域住民の参加や夜間での訓練がなかった。また、非常時の備品は補充されておらず確認できなかった。</p>	<p>地域住民へ避難訓練参加の呼びかけを行い、日頃より夜間の災害を想定した訓練を行うとともに、常に入所者の人数に応じた非常時の備品の更新や補充するなど、災害時に備えておくことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症も一つの病名であり、人格を失わされるものではない。 と常に勉強会を通し再確認をし、スタッフの人生勉強に勤めご利用者様と共に生きる事を念頭に置いている。	ガイドラインを毎年見直し、接遇スローガンを掲げると共に、利用者へ言葉かけは十分注意して自己決定しやすいよう心がけている。また、記録等は事務室棚に保管し、外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く言葉に出せない利用者様には、気付いた点などを鑑み二者選択や、簡単な表示で意思の確認を行っている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活は、自由であるべきをモットーに、職員間で討議し個人個人満足できる事柄を探し支援を行うようにしている。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	職員の思いだけでなく、若い頃の装いなど家族のご意見も聞きながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今期ご利用者の皆様と一緒に外食の機会を持つことが出来た。 日頃の姿でない利用者さんの笑顔が見れたので、もっと機会を広げ一緒に食を楽しむ事を行っていきたい。	外食や自家菜園を活用して、環境を変えたり、収穫されたばかりの新鮮な旬の食材を使用するなど、食への関心や食欲を引き出す工夫をしている。下ごしらえや配膳、下膳を一緒に行うと共に、利用者の状況にあわせて、とろみ食や刻み食を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みや、体調等に合わせた食事の提供をしている。 主治医とも相談しトータルで摂取量を考え、ご本人にも納得した量を提供している。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにて口腔ケアを実践している。義歯の洗浄は毎日夜間に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗の無い排泄に心がけている。また声掛け態度など注意し自尊心・プライバシーに配慮している。	温かいおしぼりを常に用意して、排泄後に支援の必要な利用者には鈴を鳴らしてもらい排泄後のケアを適切に行っている。個別に時間単位の排泄チェック表を作成し、本人の生活リズムを把握して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事からの繊維質を多く取ることを心がけたり、体操などを行い自然排便につなげる工夫をしている。便秘薬も使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日・時間帯などほぼ決まっているが、今後はご利用者一人ひとりにあわせ、入浴が出来れば、・・・と考えている。スタッフ間で話し合い、午後に入浴したことも有る。	週に三回は体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができるようにしている。入浴を嫌われる方には声かけなどを工夫して、気持ちよく楽しめるように配慮している。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活の活発化が、図れていない状況が見られるが、スタッフ間で検討し散歩など屋外を歩く支援をしていきたい。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、飲み残し等の無い様に努めるのは無論、薬の作用についても薬局との連携を図りスタッフ間で話し合ったりしている。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期入居者様の生活の中で、自主的に家庭菜園への興味を開き取り中庭に小さな菜園を作りご利用者様と共に楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調、気候の状態に応じて戸外への散歩を行ったり、ドライブを行ったりしている。お墓参りなどもご家族の協力を頂行っている。	中庭にウッドデッキとベンチ、自家菜園が整備され、天気の良い日は自由に中庭での外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、外食、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力を鑑み、お買物日などお連れして選んで買物をさせていただくことはあるが、実際にはお金の支払いなどは職員が行っている。</p>		
51	0	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話連絡などは、取次ぎ本来居室で、対応となっているが、難聴の関係で職員が中継ぎをすることも有る。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルでの席の配置など、時々変え、気分転換を図ったり、お花を飾るなどし、明るい雰囲気づくりに心がけている。</p>	<p>中庭にウッドデッキと自家菜園が整備され、解放的で季節の風を感じることが出来る。室内の共有空間には花や手作りの品が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がただよい、落ち着いて過ごせる空間となっている。</p>	
53	0	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳み部屋で寝転ぶことが出来るように掛け布団を常に用意している。またテレビ前にソファを用意しゆっくりとテレビ観賞が出来るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスの上には写真たて鏡思い出の小物を置き、室内はハンガー掛け等を置き、思い思いに居室内を飾っている。</p>	<p>家族とも相談し、一人ひとりの希望や状況に応じて写真、机、椅子、CDラジカセ、ぬいぐるみなど馴染みのあるものを持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせる居室となるよう配慮している。</p>	
55	0	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>お部屋が理解できるようにドアには名前を大きく書き、張り出している。排泄用品は衣装ケースを利用し本人が持ってこれるようにしてある。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設開所当初の原点に立ち返った理念を掲げ、毎日朝礼で唱和して実践に努めているが、成果が出るまでには至っていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校の行事参加に声をかけてもらったり、近くの小学生と散歩しながら会話を楽しんだり、自然な形での交流に努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護実習生の受け入れや、小学生の学習交流会など、定期的に行われているが、地域での認知症学習会などを呼びかけたが実践できなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催されているが、出席メンバーや内容が同じ様になってしまい、結果を踏まえた改善まで至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議への出席を毎回して頂き、特に防災無線の実用的な設置の実現や、疑問点があったらすぐに対応してもらうなど、日常的な協力関係ができています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設当初より、身体拘束そのものが無いとの思いで生活している、駄目を言わない介護をサブ理念に掲げて日々努力しているが、怪我の防止に対する言葉かけなど、これで良いのかと日々悩みながら行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全な生活を考えるあまり、言葉の虐待を行っていないか行動の抑制を行っていないか、日々考えながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての勉強会を開いて、その必要性や内容を理解して活用できるようにしている。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前に自宅訪問を行い、施設概要や生活のあり方を話し合い、入居時には、重要事項説明書や契約書を使い、事故発生時の対応や終末期の対応など、具体的に説明して不安なくサービスを受けられるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見や要望は日々の生活の中でくみ取り、出された意見はミーティング等で話し合うにしている。また家族からは推進会議出席時や日頃の面会時などで要望をお聞きし、運営に活かせるようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の定例会や朝礼などで職員の意見を聞く機会を設けているが、職員への伝達が不十分だったり、意見への改善ができなかった</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>各職員の体調や勤務条件などを考慮しながら行っているが、職員数の制限もあり、職場環境の改善に至っていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>協議会開催の研修参加など研修の機会があり、できるだけ多く学ぶ機会を考えているが、その結果を現場に生かすまでに至らない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域協議会に参加し、電話やメールでのやり取りを通じて悩みなど相談して、お互いの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問してゆっくりと話す時間を持ち、家族、本人の気持ちをお聞きしたり、施設見学してもらって、家具の持ちこみや配置を決めて頂き、できるだけ早く落ち着いた生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から施設の考え方や生活のあり方、一番困っている事、認知症への理解など、十分な時間を使って話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の自宅訪問で、本人家族の困り事や要望をお聞きし、利用初期の不安解消に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中からその人のできる事、できない事を見極め、介護に活かしているが、日々できなくなる事が多くなり、介護する量を増やしてしまう事が多くなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居生活が長くなってくると、どうしても疎遠になりがちだが、生活用品の持ちこみ時や、遠方の方には電話や定期のお便りで、家族との絆の重要性を常に伝え、共に支えあっていく重要性を理解して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行ったり、お墓参りなど定期的に行っている。外出困難な方は面会をお願いして、状況説明をしていくなかで、馴染みの関係の重要性を理解して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で生活していく中で利用者同士の仲たがいがあったり、折り合いが悪くなる事もあるが、職員が中に入りできるだけ孤立しないよう援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても面会に行ったり、今までの詳しい生活状況をお知らせして、早く新しい環境に慣れるようにしている。また看取りをされた家族とは、その後の相談も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に思いや希望をお聞きしたり、日々の生活の中で意向の把握を行っている。また重度になって確認が困難な方は、それまでの生活状況の中から、本人の望む姿を考えながらサービスに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より生活状況をお聞きしたり、日常会話を通じてどのような暮らしをしていたかを聞いている。しかしその結果が全職員に伝わっていない事もあった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況を注意深く見守り、出来る事できないことの把握に努めている。また生活記録表を活用して日々の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、主治医や看護師の意見、スタッフの気づきなどを総合して、現状に沿った介護計画を作成しているが、同じような内容になってしまう事がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録台帳を用意して情報収集を行っている。また毎日の朝礼の中で日々を状況を報告したり、連絡帳などを活用して情報の共有化を図り、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診が必要な方は、スムーズに診察が受けられるよう援助を行ったり、法人内サービスを活用して、入居前に受けていたサービスでもまた受けられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自分も通っていた学校の行事に参加する事で、元気な若い頃の気持ちに立ち帰り、心豊かに過ごせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は2週間に一回の往診を行い、体調変化時は夜間休日でもすぐに対応できるようにしている。また専門医受診時は紹介状を書いてもらい、適切な治療が受けられるよう援助している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問、日々の関わりの中で得た新しい情報はすぐに伝え、重度化しないよう早めに医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージが最小になるよう必要な情報提供をし、入院時の面会も行い状況確認を行っている。また家族とも協力しながら早期退院へ向けての相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した後の意向をお聞きし、状態変化に添ってその都度意向を確認、同意書を作成して家族と共に、看取りまで支える体制があり、実践できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して適切な対応が取れる体制が出来ているが、職員の訓練が初期のみで行われておらず、特に夜間時の対応に不安を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害など災害時の対応を想定して訓練を行っている。避難先も地域の研修センターを利用して、地域との連携も図っている。避難誘導に支障になっているフェンスの改修にも取り組みたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊敬の念を持って、ありがたいの気持ちを忘れないようにしているが、排泄介助など配慮に欠けた言葉かけが出てしまう事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定を尊重するようにしているが、業務に流されたり、安全を考えるあまり希望に添えない事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間など、本人の体調や気分に合わせて柔軟に対応しているが、体調の為には規則正しい生活も必要であり、希望に添えない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族の協力も頂きながら好みの物を用意し、出来るだけ自分で選んで頂き、困難な方は元気な頃の装いをお聞きして、その思いに添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて職員と一緒に調理の手伝いや片付けに参加、職員も同じ食事を一緒に会話しながら食べるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好や体調に合わせて、食器の大きさも工夫して、その人にあった食生活ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に合わせて声かけや援助を行い、できるだけ自力で行えるようにしている。また寝たきりの方はガーゼ清拭で清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録、把握して出来るだけトイレでの排泄ができるようし、排泄用品も能力に合わせた物を使用している。また失敗しても羞恥心に配慮した対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にきな粉牛乳を勧めたり、野菜類を多く摂れるメニューを摂り入れている、予防に運動を摂り入れたが、体調不良の方も多く継続できなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴順番やお湯の温度など、できるだけ希望に添った入浴の実施に勤めているが、一人でゆっくりと時間をかけて入りたい希望もあり、今後工夫していきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は無理に誘うことなく、昼間できるだけ体を動かして日中活動的になるようにして、夜間安眠できるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬資料があり、不明な事は内容確認ができるようにしている。また看護師や薬剤師から、いつでも必要な情報が得られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇時間の活用として、個別の能力に合わせた家事への参加を勧めているが、同じ作業に集まってしまう混乱する事も多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	能力に合わせて外出や散歩、中庭や玄関口での外気浴など行っている。また家族の協力のもと、自宅やお墓参りなど外出の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の今までの生活歴から、お金への思いや、所持する事や使う事の意味を理解して、所持できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族との電話連絡は、いつでも気兼ねなく出来るようにしている。手紙は来た事を忘れないよう整理するなど、家族との絆を大事にしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>皆様が一緒に過ごすホールでの重要性を理解し、全員の希望どおりにはできないが、難聴の方、視力の悪い方なども気持ちよく過ごせるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やホールにイスやソファを置いて工夫しているが、一人になれる空間づくりには至っていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人家族に自由にレイアウトして頂き、安全で使いやすいようにしている。またできるだけ馴染みの家具や家族との写真を持ち込んで、心地よい空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力の弱い方や場所に不安がある方など、トイレやお風呂など張り紙や居室の表札など、少しでも安心して過ごせるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない